

9-7

発語と嚥下の関連性

ティマカシ・バニヤ～ありがとう～

会話

誤嚥の軽減

特別養護老人ホーム 愛生苑

介護職員 亀田 克也

東京都多摩市和田 1547

介護職員 佐々木 瞬

介護職員 石田 光俊

TEL: 042-376-3555

E-mail: aisei@crocus.ocn.ne.jp

FAX: 042-376-3530

URL: <http://www2.ocn.ne.jp/~toukyou/>今回の発表の施設
またはサービスの
概要

施設が在苑者の生活の場であるという認識のもとで、提供される全てのケアサービスが在苑者のQOL向上に結びつくよう、その現実へ向けて介護技術や知識を習得することはもちろんの事、社会人としての人格形成に努めるべく、自己研磨に励む。

<取り組んだ課題>

食事の際むせ込みや嘔吐、誤嚥の頻度の高い利用者3名（男1名女2名）を対象に、嚥下機能の向上及び悪化防止に取り組みました。

<具体的な取り組み>

- Tさん男性 88歳 全盲 刻み食 朝むせ込み多い。
- Kさん女性 88歳 刻み食 月2~4回程度嘔吐ある。
- Iさん女性 89歳 刻み食 時々食事詰まらせる。
- 以上3名を対象に、毎食前に3~5分程度の時間を設け一日計10分~15分間の会話をした。
- 3名の既往歴を調べ、調査したものを別紙にまとめフロアで情報を共有できるようにした。
- 食事前の会話をするために業務を見直し、無駄を省き時間に余裕を作った。
- 会話をするにあたり介護職員が一方的な声掛けではなく会話を楽しむように意識した。
- OOTとの連携を図り定期的に姿勢嚥下状態の確認を行った。

<活動の成果と評価>

○個人評価

- ・ Tさんについて、毎朝むせ込んでいたのが週に2~3回はむせ込まなくなった。
- ・ Kさんについて、嘔吐はなくならず状態以前とかわらず。
- ・ Iさんについて、活動期間中は詰まらせるることはなかった。

○全体的な評価

- ・ 笑顔が増えた
- ・ 声が大きくなった。
- ・ 自発的な発語が出るようになった。
- ・ ご家族から喜びの声を頂けた。
- ・ 会話をすることによって介護職員が利用者個人のことを深く知り信頼関係を築き、お互いが楽しく生活が送れるようになった。
- ・ 介護職員が業務をこなすための声掛けだけでなく、会話を楽しめる時間ができた。

<今後の課題>

発語と嚥下について取り組んだが、発語（会話）は嚥下能力だけでなくその方の生きる意欲や表情までも変化させる力があることに気づきました。

今後は嚥下機能低下している方だけを対象にするのではなく、幅広く活動を行っていき一人でも多くの利用者と信頼関係を築いていきたいと思います。その中で今までよりも一回でも多く会話をし、一回でも多く利用者の笑顔が増えたら良いかと思います。